

令和元年 7月 22日

厚生労働省 看護基礎教育検討会  
座長 遠藤久夫様

一般社団法人日本地域看護学会  
理事長 宮崎美砂子

## 看護基礎教育における地域看護学の必要性と新設に関する要望書

少子化および超高齢社会への対応とともに、わが国では、健康寿命の延伸が目標に掲げられています。また、医療の高度化、入院期間の短縮化等に伴って療養場所も多様化し、看護職、殊に看護師の働く場所も拡大しています。一方で、少子高齢化、健康格差の拡大、多発する災害など、人々の暮らしを脅かす様々な社会的な課題も増え、安全で安心できる、より健康な地域社会をつくることが一層重要になっています。

このような時代にあつて、看護職には、人々がどのような地域や環境で生活しているのかを継続的・包括的にアセスメントする力や重症化予防も含めた健康問題の予防および健康増進に関わる力を高めていくことが求められています。

地域看護学は、現代社会の課題に対して、下記の視点・方法から解決を目指す学問です。

- 1) 地域看護学は、人々の生活の質の向上とそれを支える健康で安全な地域社会の構築に寄与することを探求する学問である。
- 2) 地域看護は、人々の健康と安全を支援することによって、人々の生活の継続性を保障し、生活の質の向上に寄与することを目的とする。
- 3) 地域看護学は、多様な場で生活する、様々な健康レベルにある人々を対象とし、その生活を継続的・包括的にとらえ、人々やコミュニティと協働しながら効果的な看護を探究する実践科学である。

看護職が地域包括ケアの実現に寄与し、多様な場で生活する人々を支えていくためには、地域看護学の知識と技術を、あらゆる看護職が共通に身に付けておくことが肝要です。既に、貴検討会でも、「看護師ワーキンググループにおける検討事項」として、「多様な場で多様な対象者への看護を提供できるための能力の強化が必要」と認識され、「l. 地域をアセスメントする能力」「m. 対象者の状態の変化をアセスメントし、健康増進や予防に関わる能力」「n. 対象者の回復力や生きる力を引出す能力」が提示されています(第3回検討会)。看護基礎教育における地域看護学の学修を通して、看護職は、現代社会に不可欠の知識・技術・態度を修得することができると思います。

以上の理由から、看護基礎教育の教育内容に地域看護学を位置づけることを、貴検討会での議論に組み入れていただけますよう要望いたします。

**要望事項：地域看護学を、保健師・助産師・看護師の基盤となる共通の教育内容として看護師教育の専門分野に位置づけること**

保健師、助産師、看護師に共通する地域看護学として、看護基礎教育に盛り込む具体的な内容の提案は以下の通りです。

## 保助看に共通する地域看護学の内容と教育方法(提案) ——地域包括ケア時代に求められる看護基礎教育の強化に向けて——

### 1. 「地域看護学」の定義と目指すところ

地域看護学は、「人々の生活の質の向上とそれを支える健康で安全な地域社会の構築に寄与することを探求する学問」であり、全ての看護職が基礎教育で地域看護学を学修することによって、看護職が多様な場で役割を発揮し、多職種と連携して適切な保健・医療・福祉を提供できるようになることを目指す。具体的な定義は、以下の通りである。

- 1) 地域看護学は、人々の生活の質の向上とそれを支える健康で安全な地域社会の構築に寄与することを探求する学問である。
- 2) 地域看護は、人々の健康と安全を支援することによって、人々の生活の継続性を保障し、生活の質の向上に寄与することを目的とする。
- 3) 地域看護学は、多様な場で生活する、様々な健康レベルにある人々を対象とし、その生活を継続的・包括的にとらえ、人々やコミュニティと協働しながら効果的な看護を探究する実践科学である。

### 2. 地域看護学の教育の目的と位置づけ

#### (1) 地域看護学の教育の目的

地域看護学を学修することにより、看護師が「多様な場で生活する多様な健康レベルにある人々の生活の質の向上」を支援する基礎的な能力を獲得し、将来、地域で活躍する基盤を創る。また、保健師・助産師・看護師が共通に、「健康で安全な地域社会の構築に寄与する」ことができるように、その概念や方法論を理解する。

#### (2) 地域看護学の教育の位置づけと目指すところ

地域看護学は、看護師教育課程の専門分野に位置づけられ、以下の2点を目指す。

- ① 地域における看護師の活動の拡大に対応し、その活動を支えるのに必要な内容（地域で看護を展開する際に不可欠の考え方・スキル）を修得する。
- ② 保健師・助産師・看護師に共通する知識基盤として「健康で安全な地域社会の構築に寄与する」基盤となる地域看護学の概念・方法論を教授する。

### 3. 地域看護学の教育目標と内容

#### (1) 教育目標

「地域において、多様な場で生活する様々な健康レベルにある人々の健康を支える看護活動について理解し、指導の下で実施できる」、また、「生活の場としての「地域」を視野に入れて、人々の健康を支える看護活動を理解し、説明できる」の2点を教育目標とする。

地域看護学の学修を通して、地域で暮らす人々のニーズを捉える能力と地域全体を視野に入れて人々の健康をまもる看護の視点が養われる。

## (2) 地域看護学の教育内容

教授する教育内容と学修レベルは以下の通りである。

### A. 地域において、多様な場で生活する様々な健康レベルにある人々の健康を支える看護活動について理解し、指導の下で実施できるようにするための教育内容

- 1) 多様な場で生活する、様々な健康レベルにある人々をアセスメントできる：個人・家族の多様性（文化・慣習・民族・生活・健康観・価値観・生きる力）を理解し、家族をシステムとしてその生活を構造的に捉え、アセスメントできる。
- 2) 人々が暮らす地域の特性をアセスメントできる：対象の健康状態の背景および資源／生活基盤としての地域を理解し、人々の健康状態と地域の特性との関連をアセスメントできる（地域特性、歴史、社会構造、保健医療福祉システム、関係職種・機関など）。
- 3) 人々が暮らす地域の特性に基づいて必要なケア資源を提案できる：地域のアセスメントの結果から、対象の健康を保持増進し疾病を予防するために不足しているあるいは充実すべきケア資源を把握し、提案できる。
- 4) 地域で暮らす人々のセルフケア能力を高め、自らが望む暮らしを実現できるよう支援する看護について理解し、指導の下で実施できる：地域を包括的に理解し、対象の生活の質と健康の向上を目指す看護を、対象の生活の場（自宅、地域、学校、施設等）に応じて実施できる。
- 5) 地域で暮らす人々を支援するための多職種連携・協働・調整の方法を理解できる：対象に関わる多くの職種の専門性や役割を理解し、連携・協働・調整、チーム医療の在り方、効果的な方法を理解できる。

### B. 生活の場としての「地域」を視野に入れて、人々の健康を支える看護活動を理解し、説明できるようにするための教育内容

- 1) 看護の対象となる「地域で暮らす人々」を理解する：地域で暮らす個人・家族を連続体として捉える（生涯にわたり成長する人・行動変容できる人など）とともに、各々が地域社会の構成員であり、人々や環境と多様な相互作用／関係性を持っている人として理解できる。
- 2) 人々の健康に影響を及ぼす生活の場としての「地域」を理解する：地域で暮らす人々の健康問題の発生や、健康の回復に影響を及ぼす生活の場としての「地域」を理解する視点を持つ。また、地域には、健康格差や健康障害が潜在すること、それを把握し、健康への影響を予測する必要性のあることが理解できる。
- 3) より安全で安心な地域づくりに向けた看護マネジメントの役割と機能を理解する：地域で暮らす人々へ、安全で安心できる質の高い看護を提供するために必要となる、倫理的な配慮、援助の環境づくり、援助の質の担保について、看護マネジメントの点から理解できる。また、健康障害を回避するための予防措置を行うことの重要性や方法が理解できる。

### (3) 地域看護学の具体的な教育内容と方法

#### (講義および演習の案)

- ① 地域および地域看護の概念の理解
- ② 生活と健康と地域特性（環境が健康に及ぼす影響を含む）の理解
- ③ 生活と地域と健康課題の関係性と対応技術
- ④ 健康支援の方法（健康相談、個別・集団への健康教育の理論とスキル）
- ⑤ 個人を取り巻く保健医療福祉資源と地域ケアシステム、従事する職種と機能・役割
- ⑥ 地域で働く看護職の活動分野と機能・開拓の必要性
- ⑦ 地域特性に関連する健康課題を認識する技術、地域アセスメントの概念と方法
- ⑧ ヘルスプロモーションの概念と重要性の理解

#### (実習方法の例示)

地域看護の視点を養い、看護を展開できるようになるための実習として、生活環境を含む対象理解と、その対象が暮らす地域のアセスメントの双方を学修目的として設定するために、以下の a～e の例などが提案できる。

- a. 協力の得られる地域住民宅への継続的な訪問と周囲環境のアセスメントを通して、日常生活への理解と経年的な視点を養う。
- b. 療養している個人・家族の生活の質を充たすために、地域に存在する資源を探し、活用可能にする方策や働きかけの方法を検討する。
- c. 「まちの保健室」や地域包括支援センターで出会う住民に対する多職種と協働した看護活動
- d. 地域イベント（健康まつり）や住民組織活動（サロン）等への参加を通じた地域住民との交流とその場を活用した健康相談、健康教育
- e. 地域におけるモデル事例（居住設備の整った家）と事例を用いた体験学習

以上